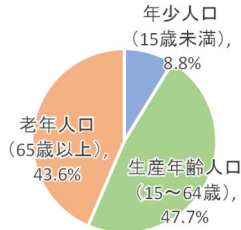


飯野 (いいの)

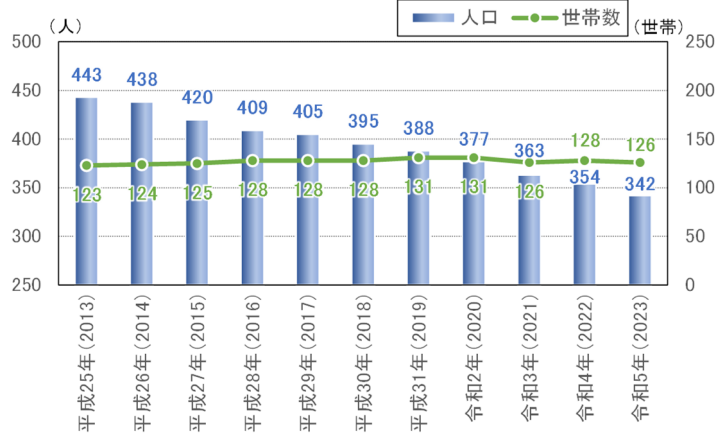
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	342人
世帯数	126世帯
高齢化率	43.6%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落は、北流する照来川と、川に並走する県道丸味温泉線沿いに、家屋が約2kmにわたって細長く散在する。周囲を山に囲まれた標高120mに位置する照来地区最大の集落である。集落は秀吉の陣屋跡を殿村、弓の訓練場跡を的場、大きな門があった跡を大門、川の西側にあるので西側との呼称由来の4区域からなる。

地名由来 『ひょうごの地名』(吉田茂樹著)では、「飯」の字は当て字が多く、「家野(イヘノ)」を「イイノ」と呼ぶ場合が多く、当地もその例かと思われるとする。巖山という山に野原があり、お殿様が来て、そこで沢山のご飯を炊いて食べたため飯野と名付けたという民話もある(『但馬・温泉町の民話と伝説』(喜尚晃子編纂))。

歴史等 天正9年(1581)の羽柴秀吉の但馬攻めでは巖山寺が焼かれ、的場・太閤ヶ平などの地名が残る。近世の飯野村は、天正11年(1853)因幡国鳥取城主宮部氏領、慶長6年(1601)同国若桜藩領、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、寛永20年(1643)幕府領、寛文8年(1668)からは豊岡藩領となった。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は423石余。特産物は但馬牛。

明治22年(1889)照来村の大字となり、昭和29年(1954)からは温泉町の大字となる。明治24年(1891)の戸数111、人口は男324・女301。

これまで把握している文化財

文化財の件数 55件 (うち指定等文化財 4件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等		
有形文化財	建造物	建築物	5	18	0	
		石造物	4		0	
		工作物・その他の構造物	9		0	
	美術工芸品	彫刻	6	10	2	
		絵画	0		0	
		工芸品	1		1	
		書跡・典籍	1		0	
無形文化財		古文書・歴史資料・考古資料	2	0	0	
		音楽	0		0	
		演劇	0		0	
		工芸技術	0		0	
		その他の無形文化財	0		0	
		信仰の場	10		21	0
		祭具	0			0
民具	0	0				
その他の有形の民俗文化財	0	0				
年中行事・民俗芸能	3	1				
民俗技術	0	0				
食文化	1	0				
民俗文化財	有形の民俗文化財	民間説話・俗信	7	11	0	
		その他の無形の民俗文化財	0		0	
		散布地・集落跡・生産遺跡	1		3	0
		古墳・その他の墓	0			0
		城館跡・寺社跡	2			0
	街道・古道等	0	0			
	戦争遺跡	0	0			
	無形の民俗文化財	その他の遺跡	0	1	0	
		山岳・高原・丘陵	1		0	
		海岸・海浜・島嶼	0		0	
河川・滝・溪谷・湖沼		0	0			
公園・庭園		0	0			
記念物	遺跡	その他の名勝地	0	5	0	
		動物	0		0	
		植物	0		0	
	動物・植物・地質鉱物	地質鉱物	1	1	0	
		生活・生業・風土により形成された景観地	1		0	
伝統的建造物群		宿場町・城下町・農漁村等	0	0		



地藏菩薩坐像



巖山神社の仁王像



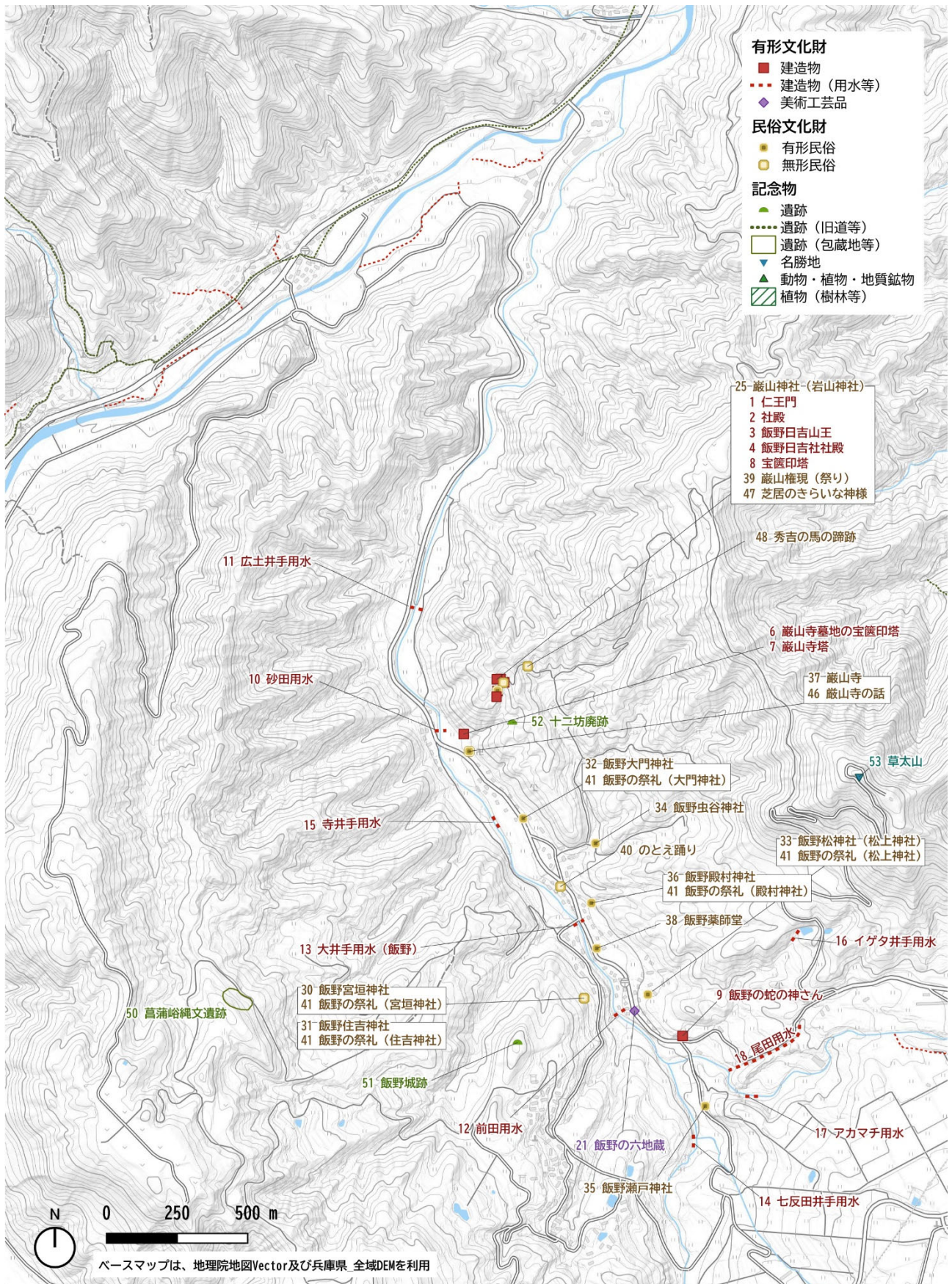
巖山権現(稚児相撲)



巖山権現(護摩焼き法要)

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

5-07 飯野

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
建築物	1	巖山神社の仁王門	巖山神社の山門は、旧温泉町では唯一の仁王門であり、美方郡でも珍しいものである。仁王像が安置されている。
	2	岩山神社社殿	日吉社殿の中にある巖山神社の本殿。
	3	飯野日吉山王	江戸時代中期の作。山中の社殿としては立派なものである。正面虹梁の中央、龍の彫刻は入念の作である。此の龍の彫刻は、その昔、田畑を荒らしたので、それを止めるために眼球に釘を打ち込んだという。
	4	飯野日吉社社殿	巖山神社境内に位置する。
	5	飯野地藏堂	概要不明
石造物	6	巖山寺墓地の宝篋印塔 (江戸時代前期建立)	泥岩を用いているため磨滅が甚だしい。基礎に刻まれている名分も「石塔」「供養」「建立」などの文字が殆ど読み取れない。江戸時代前期の作と思われる。傾斜面に自然石を積み上げて整地し、大きな自然石の上端に十二葉の素弁を彫って反花座と見立て、その上に基礎を据える。基礎は四側面に輪郭をつくり、上端は二段の段形につくる。塔身は背丈がやや長く、素面に月輪を太く線刻して、顕教四方仏種子を刻むが、普通と異なって南北の種子を置き換え、釈迦を北に、弥勒を南に配している。塔の高さは、基礎以上笠の頂上まで133cm。
	7	巖山寺塔 (中世建立)	巖山寺墓地にある大型の宝篋印塔。中世。
	8	巖山神社の宝篋印塔	寛永13年(1636)に遷化した巖山寺と正樂寺の快酒法印の追善供養のために建立されたもの。現在は巖山寺境内に安置されている。
	9	飯野の蛇の神さん	50×90cmの石塔。村のかみの岩の上に祀られている。かつては反対側の妙見堂の横にあったものを、道路改修のために移転したものである。
工作物・ その他の 構造物	10	砂田用水	近世に築造された水路。水路延長400m、灌漑面積2.20ha。取入口は飯野大門531、排水口は照来川。
	11	広土井手用水	近世に築造された水路。水路延長350m、灌漑面積1.30ha。取入口は飯野北垣243、排水口は照来川。
	12	前田用水	近世に築造された水路。水路延長1,000m、灌漑面積2.80ha。取入口は飯野的場1011、排水口は照来川。
	13	大井手用水	近世に築造された水路。水路延長1,200m、灌漑面積5.10ha。取入口は飯野ホーキ1928。
	14	尾田用水	近世に築造された水路。水路延長600m、灌漑面積1.50ha。取入口は飯野山本1406。
	15	七反田井手用水	近世に築造された水路。水路延長1200m、灌漑面積2.36ha。取入口は飯野1629付近。
	16	寺井手用水	近世に築造された水路。水路延長400m、灌漑面積0.45ha。取入口は飯野584-1付近。
	17	イゲタ井手用水	近世に築造された水路。水路延長500m、灌漑面積1.15ha。取入口は飯野1221-3付近。
	18	アカマチ用水	近世に築造された水路。水路延長300m、灌漑面積0.70ha。取入口は飯野1448付近。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	19	草庵囲碁像	郷土出身彫刻家、福島一玉の作品である。氏の作風は毛彫流で小さい作品を精密に仕上げる所に特徴がある。本作品はこの作風を顕著に表しており秀作といえる。形状：樺材木彫、大きさ：縦41cm、重量1.95kg。 町指定文化財

分類	番号	名称	概要
彫刻	20	地藏菩薩坐像	材質は、檜の寄せ木づくり。玉眼が入っており、円頂、耳朶環状。三道彫出、納衣を纏い、左肩から袈裟を懸けている。仏像を修復した際に、面部から、「弘治二年（1556）八月二十九日」などの銘文が発見されたため、室町時代末期の作品と推測されている。地藏尊の胎内には高さ10cmほどの立像が蔵されている。この秘像は貞観3年（861）に作られたもので、その後500年間は岩山にさらされていたが、弘治2年（1556）に地藏尊像を彫刻して胎内に安置し祀ったものである。 <u>町指定文化財</u>
	21	飯野の六地藏	80×90cmの石像6体。村のかみの道路端に祀られている。風化や破損はなく、ほぼ完全に残る。
	22	飯野薬師さんの仏像台座	20×65cmの台座。村中の薬師堂に祀られていた仏像2体が昭和47年頃に盗難に遭い、台座だけが残る。平成5年に仏師福井宗傳氏により薬師如来像が奉納される。
	23	巖山神社の仁王像	巖山権現入口に祀られている1対の仁王像。立像高さは2.7mで、享保13年（1728）に京都の仏師によって作られたものであることなどが記録に残る。享保13年に再建されたものであり、より古くから仁王像があったことが天明3年（1783）の古文書から明らかになっている。
	24	巖山寺の不動明王	本堂に安置され、作者は不詳であるが、鎌倉時代の作といわれる。岩にかけた坐像にして、高さ50cm、幅70cm。姿は極めていかめしく、その形相恐ろしく、彫刻巧みにして、芸術品としても価値が高い。脇仏の2像は泰瑗法印（寛政年間（1787～1793））が新しく付け加えたものと伝わる。
工芸品	25	阿弥陀如来懸佛・観音菩薩懸佛	阿弥陀如来懸佛は約30cm、観音菩薩懸佛は約15cmである。阿弥陀如来懸佛の背面に貼り付けられているの木に「応永三二年」（1425年）などと墨書されており、室町時代の作品と思われる。 <u>町指定文化財</u>
書跡・典籍	26	巖山寺の扁額	巖山寺開山の慈覚大師真筆と伝わる。雄健な「巖山寺」の文字は、墨痕のみ鮮やかに浮き上がり、他の木地の部は長年月の風雨に磨滅したように見えるが、年代を経ているにもかかわらず、極めて明瞭であるのは、初めから陽刻であったものと思われる。縁に施された唐草の彫刻は、また甚だ巧みで、その刀法の力強いことはあたかも焼印を押したかのようである。かつては岩山地蔵堂にあったもので、現在は山下の巖山寺内に蔵してある。
古文書・歴史資料・考古資料	27	飯野村文書	村所有。
	28	村尾家文書	概要不明

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	29	巖山神社（岩山神社）	祭神は大山祇命。日吉山王（一名比叡明神）又は地導大菩薩ともいわれるが、詳細は不明。貞観3年（861）の創立といわれ、はじめ巖山大権現といい、明治初年（1868）に巖山神社と改めた。明治6年（1873）10月に村社となる。境内には日枝神社（猿田彦神社）がある。
	30	飯野宮垣神社	近代社格は無格社。
	31	飯野住吉神社	近代社格は無格社。
	32	飯野大門神社	近代社格は無格社。
	33	飯野松神社（松上神社）	近代社格は無格社。
	34	飯野虫谷神社	近代社格は無格社。
	35	飯野瀬戸神社	近代社格は無格社。
	36	飯野殿村神社	近代社格は無格社。

5-07 飯野

分類	番号	名称	概要
信仰の場	37	巖山寺	天台宗延暦寺派に属す。貞観3年(861)慈覚大師が重慶上人の徳をしたって、当山に入り、岩山権現宮本地地藏堂及び12ヶ坊を建立して修行の場とした。隆盛をきわめたが、秀吉の進軍の際に焼け、寺領も没収された。寛政年間(1787~1793)に中興するも、天保5年(1834)の全村焼失の火災にあい、古書諸記録も全く無に帰した。嘉永3年(1853)に再建。本尊は弥陀如来坐像で、仏師は京都の法橋浄慶、享保10年(1725)に村人の勧化によって作られたもので、幸いにも天保の火災はまぬがれている。
	38	飯野薬師堂	村中にあり、仏像2体があったが、昭和47年頃に盗難に遭い、台座だけ安置されていた。しかし、平成5年に仏師福井宗傳氏により薬師如来像が奉納され、開眼供養法要を執り行っている。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	39	巖山権現(祭り)	飯野と塩山では8月24日に地藏盆の祭りが行われ、但馬では珍しい伝統的な神仏習合の形式を今に伝える。巖山地蔵大権現の祭りであり、宮は巖山神社で山の中腹に祀られている。祭りは前日に宮司がこもり堂で一夜明かすことから始まり、朝は子供会樽御輿の巡行で山伏と御輿が各戸を巡る。昼から護摩供養、湯立て、呼び物の奉納相撲と続く。10歳までの子どもに赤いハチマキと腹当てをつけ、力士に抱き上げてもらいシコを踏むと丈夫に育つという習わしがある。夜は盆踊りで祭りを締めくくっていたが、近年は盆踊りを実施していない。 町指定文化財
	40	のとえ踊り	盆踊り。
	41	飯野の祭礼(5社)	8月25日に行われる。飯野区内5社(住吉神社、殿村神社、宮垣神社、大門神社、松上神社)の祭礼。
食文化	42	ジャブ料理	鶏肉、糸こんにゃく、ごぼう、にんじん、玉ねぎ、豆腐などを鍋で煮た郷土料理。祭りや冠婚、古希祝い等で食べた。
民間説話・俗信	43	飯野の由来(飯野の地名)	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p49 参照
	44	すずめとつばめ	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p88 参照
	45	飯野の由来(大門・殿村・西側・的場の地名)	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p175 参照
	46	巖山寺の話	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p81 参照
	47	芝居のきれいな神様	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p152 参照
	48	秀吉の馬の蹄跡	巖山神社への参道途中に、秀吉の馬の蹄跡と伝わる岩がある。
	49	空を飛んだ馬 (出雲岩・くらかけ岩)	※『温泉町郷土読本』(昭和42年、温泉町教育研修所調査部編集) p238 参照 ※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p74 参照

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・ 集落跡・ 生産遺跡等	50	菖蒲峪縄文遺跡	縄文時代の散布地。大根畑数カ所から縄文時代早期の石器・土器を採取。
城館跡・ 寺社跡	51	飯野城跡	飯野の西南、山頂の平坦部に温泉城主奈良左近の支城があったという。『美 方郡誌』によると「天正の際、山名の旗本、奈良左近は温泉城にいたが、 此地に出城を構え、このあたりを鎮めていた…」とある。
	52	十二坊廃跡	巖山神社を下った平地に廃寺跡がある。

■ 記念物／名勝地

分類	番号	名称	概要
山岳・高原・ 丘陵	53	草太山	頂上から浜坂海岸が一望できる。今は幻のキノコとなりつつある香茸も自 生している。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
地質鉱物	54	照来盆地	「照来米」「但馬牛」「照来清水」など、地質、地形、水質などの恩恵を 受け、歴史、食などが豊富に存在する。

■ 文化的景観

分類	番号	名称	概要
生活・生業・ 風土により 形成された 景観地	55	照来盆地の棚田	地すべり地の緩斜面を利用して拓かれた棚田。

自治会の区域における歴史文化・文化財の記録作成等の取組

・『村の記録 いいの』（昭和58年7月、飯野区編集・発行）

